



## 令和4年度 事業計画 関連資料

— 目次 —

- 第21回川に学ぶ体験活動全国大会 in 東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

令和4年5月28日（土）

NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会

## 「川に学ぶ体験活動全国大会 in 東京」実行委員会規約

### (名称)

第1条 本会は「川に学ぶ体験活動全国大会 in 東京実行委員会」(以下「実行委員会」と称する。

### (目的)

第2条 実行委員会は「川に学ぶ体験活動全国大会 in 東京」を成功裡に実施するため、円滑な企画・運営を行うことを目的とする。

### (事業)

第3条 実行委員会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 基調講演、活動事例発表会、全体会等の企画運営。
- (2) 体験活動の企画運営。
- (3) 交流会の企画運営。
- (4) 関連イベントの企画運営。
- (5) 広報その他 大会の企画運営に関わる事項。

### (委員)

第4条 委員は学識経験者、関係河川管理者、地方公共団体ならびに河川の体験活動を推進する諸団体・個人をもって組織する。

- (1) 実行委員長を置く。実行委員長は田村祐司をあてる。
- (2) 副実行委員長を置く。副実行委員長はNPO法人川に学ぶ体験活動協議会代表理事をあてる。実行委員長に事故ある時は、副実行委員長がその職務を代行する。
- (3) 実行委員会に事務局を置く。

### (監事)

第5条 実行委員会に監事若干名を置き、会計処理を監査する。

### (委員会)

第6条 実行委員長は、実行委員会を招集し、その議長となる。

- (1) 実行委員会は次の事項を審議決定する。
  - ① 事業計画や予算・決算に関すること。
  - ② その他重要な事項に関すること。

(2) 実行委員会の議事は、出席者の過半数により決する。同数の時は議長がこれを決する。

(運営委員会)

第7条 実行委員会に運営委員を置く。運営委員会は下記の事項を協議・執行する。

- (1) 実行委員会の議決を要しない会務の執行に関する事項。
- (2) 実行委員会で決議した事項の執行に関する事項
- (3) その他実行委員会で必要と認めた事項。

(事務局)

第8条 実行委員会事務局は、東京海洋大学内（田村祐司教員室）に置く。

(会計)

第9条 実行委員会の経費は次をもってあてる

- (1) 参加費
- (2) 助成金
- (3) 寄付金、その他収入

2. 実行委員会の会計は、実行委員会発足の日から解散の日までとする。

(解散)

第10条 実行委員会は、会計の最終処理をもって解散とする。

(雑則)

第11条 この規約に定めるもののほか、実行委員会の運営に必要な事項は、委員長が実行委員会に諮って定める。

2 この規約は令和4年5月21日に施行する。

## 第21回川に学ぶ体験活動全国大会in東京

## 実行委員会名簿

順不同・敬称略

	職名	氏名	所属	職名	備考
1	実行委員長	田村 祐司	東京海洋大学	准教授	
2	副実行委員長	(5/28確定)	NPO法人川に学ぶ体験活動協議会	代表理事	
3	実行委員	信田 智	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課	河川環境保全企画調整官	
4	実行委員	塩井 直彦	国土交通省関東地方整備局	河川部長	
5	実行委員	早川 潤	荒川下流河川事務所	所長	
6	実行委員	(調整中)	東京都河川部		調整
7	実行委員	板倉 浩幸	相模原市立相原小学校	教諭	
8	実行委員	岩本 唯史	株式会社水辺総研	代表	
9	実行委員	斉藤 隆	NPO法人つくばハーモニー	理事長	
10	実行委員	佐藤 繁一	NPO法人国際自然大学校	事務局長	
11	実行委員	清水 昭夫	株式会社クリアウォーター	代表取締役	
12	実行委員	鈴木 昇	株式会社ニフティ	代表取締役	
13	実行委員	辻 英之	立教大学	非常勤講師	
14	実行委員	土屋 信行	公益財団法人リバーフロント研究所	技術審議役	
15	実行委員	松本 猛	水都東京・未来会議		
16	実行委員	村松 真哉	公益財団法人ハーモニセンター	理事長	
17	実行委員	森 美文	森環境教育事務所	代表	
18	実行委員	安田 陽一	日本大学理工学部土木工学科	教授	
	監事	吉野 英夫	NPO法人川に学ぶ体験活動協議会	監事	
	事務局	橋本 正法	NPO法人地域交流センター	代表	
	事務局	橘 昌憲	NPO法人川に学ぶ体験活動協議会		
	事務局	大井 里美	NPO法人川に学ぶ体験活動協議会	事務局長	

第 21 回 川に学ぶ体験活動全国大会 in 東京  
大会企画概要 資料

1 第21回大会 企画概要について

(1) 大会基本コンセプト：歴史的・文化的な水都・東京の川の価値再発見

テーマ：(仮)「大江戸・かわ物語」

獲得目標について

- 川をテーマに様々な活動をしている全国の川仲間がリアルに集うことで、地域の防災力、教育力、観光力、水難事故防止、with コロナ力等を高める機会とします。
- 全国各地の活動事例を共有し、水都・東京の川の魅力を体験することを通じて、水都・東京及び日本の川の「潜在的価値」を全国に発信します。
- 川に学ぶ体験活動を推進し、「川に学ぶ社会の構築」をめざします。

(2) 会 場：(候補) 日本大学 or 公的施設

※コロナの状況により、不確定要素有。公的会場の確保を検討、

(3) 開催日：令和4年10月29日(土)・30(日)

(4) 日 程：大会の基本的な日程(案)

- 1 日目 ★12:30 挨拶  
祝 辞
- ★12:50 基調講演  
竹村公太郎氏：東京の川の歴史・文化・防災に関する話
- ★14:00 全国活動事例紹介(全国3、開催地2)  
[テーマ] with コロナ体験活動好事例  
川の歴史・文化・防災関連事例 等
- ★15:00 パネルセッション  
コーディネーター：竹村公太郎氏  
パネラー  
・東京の川の歴史文化の体験活動を語る人  
・教育資源としての活用を語る人  
・東京の川の防災、水難事故について語る人  
・川の文化的価値について語る人(川瀬巴水など)
- ★16:15 休 憩
- ★16:30 分科会(パネルセッションの掘り下げ)  
①ブラタモリの・水都の川  
②プラゴミゼロ・持続可能な川づくり  
③学校教育資源としての川  
④荒川流域の水害シミュレーションから学ぶ
- (★18:00 交流会 ※社会情勢に応じて検討  
「屋形船」「施設内会館」等)

- 2日目 ★9:00 エクスカーション案（現地集合・現地解散）
- ①常盤橋・日本橋・江戸城コース（歴史・文化・防災）  
→ 「水都東京・未来会議」に企画をお願いする
  - ②北十間川・スカイツリーコース（SDGs・観光）  
→ E-ボート活用
  - ③小名木川・荒川ロックゲートコース（防災・歴史）  
→ 荒川下流河川事務所の防災普及活動兼務（あらかわ号）
  - ④葛西「カヌー・スラロームセンター」コース（教育・観光）  
→ 東京都・指定管理者と協議・調整
- ★12:00 終了

(5) 予算：予算の基本的考え方

- (ア) 全体予算・助成金・寄付金等について
- ① 事務局予算は、公益財団法人河川財団の河川基金の助成金を基本とする。
  - ② 参加費・協賛費・助成金等は、用途を明確にして運用する。
  - ③ エクスカーション、（交流会費）は個別に実費ベースで参加費を設定する。
  - ④ 会場にて RAC グッズやイベントに関連するグッズの物販を行う。
- (イ) 決算確定は、令和5年1月の予定。

(7) 広報活動

- ・実行委員各位のネットワークにより本事業の周知を図り、結果として RAC の認知度アップにつなげることとする。
- ・各参加団体、機関の広報の場として活用し、場を盛り上げることとする。

## 2 今後の運営について

### ■スケジュール概要

令和3年11月	河川整備基金申請
令和4年 4月26日	準備会開催
令和4年 5月21日	第1回実行委員会開催 予算案・実施内容等の決定 企業・団体等への協力依頼
令和4年 7月	全国の RAC 会員団体及び関係者へ案内状郵送
令和4年 8月	第2回実行委員会開催
令和4年10月上旬	第3回実行委員会開催
令和4年10月29日（土）・30日（日）	全国大会の実施
令和4年11月～	報告書の作成
令和5年 1月	第4回実行委員会開催
令和5年 2月	河川基金報告書提出・協賛団体等へ報告